

YS1-1

鳥取大学医学部附属病院NICU・GCUの面会支援

三浦 真澄

鳥取大学医学部附属病院

2019年末に新型肺炎として確認され、SARS-CoV-2が原因として同定された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行は当初限定的であった。2020年1月30日、世界保健機関（WHO）は、SARS-CoV-2流行を「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」と宣言した。しかし感染拡大を抑えることはできず、瞬く間にパンデミックとなった。そのような中、感染対策の一環として、世界中で入院患者への面会・訪問が制限された。小児の入院患者においても、米国疾病予防管理センター（CDC）や米国小児科学会等から面会・訪問を制限する提案や勧告が出され、当院においても面会禁止や面会制限を行うこととなった。病院への面会・訪問の制限は、公衆衛生戦略の重要な要素であるが、児と親の相互作用や愛着形成の観点からは大きな危険を有する。親の存在と児との初期の相互作用の重要性や、児と親の愛着形成がその後の児の成長および発達のために重要であることが知られている。母親においては児との分離により母性の喪失感や育児不安感を覚え、エジンバラ産後うつ病質問票のスコアが高値になるなど多くの報告がなされている。COVID-19の継続的なパンデミックにより面会制限が長期化する中、情報通信技術（ICT：Information and Communication Technology）を用いたオンライン面会の報告が散見されるようになった。2020年9月、当院では成人病棟入院患者向けのオンライン面会が開始された。病院が貸し出すタブレット端末を使用し、院内専用ブースと病室等をビデオ通話アプリでつなぐ方法が用いられた。当院NICU・GCUにおいても面会制限の長期化による児と親の分離による影響を再考し、それまで行っていた数日毎の家族への電話訪問等に追加する対策を検討した。そこで成人病棟向けのオンライン面会で使用している無料のオープンソースビデオ会議ソフトウェアを用いたオンライン面会を計画した。家族のスマートフォン・PC（android、iOS、Windows、MacOSで利用可）と病棟のタブレット端末とを接続し面会する方法とした。NICU・GCUでのオンライン面会実施についての要望を病院に提出するとともに、患者家族への説明書・同意書、スタッフ用マニュアルを作成し、実施承認後の2020年10月から運用を開始した。現在まで大きなトラブルなく運用できている。本シンポジウムでは、当院におけるオンライン面会の運用までの流れや運用の実際について説明する。またオンライン面会の今後の展望と検討すべき課題を示し、より良い母子関係・父子関係・家族スタッフ関係を構築するにはどのようにICTを活用すればよいか考えてみたい。